

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	FLOW岡寺			
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		～	2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	95名	(回答者数)	81名
○従業者評価実施期間	2026年2月10日		～	2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士や保育士が在籍し、子どもの理解に基づく専門的な支援体制を提供している。	作業療法士や保育士が在籍し、専門的な視点を活かした支援の充実を行っている。アセスメントを通して、子どもの特性や発達段階を十分に理解し、職員間で共有し、一人ひとりにあった個別療育および集団療育を提供している。	支援者それぞれの専門的な視点を活かし、定期的なケース会議や情報共有をもとにした検討会を設け、支援内容の立案や見直しを継続的に行っていく。
2	お子さんが安心感をもって「たのしい」「また来たい」と実感していただける支援を提供している。	お子さんが安心感をもって来所を楽しみにして下さる環境づくりに努めている。お子さんのやりたい活動に寄り添いながら、主体的に活動に取り組む機会や肯定的な関わりを意識した支援を提供している。	支援者間で日々の情報共有を行いながら、どの支援者が担当しても関わり方や支援の統一を図れるようにしていく。お子さんが安心し、主体的に関われるよう、お子さんの状態に応じた柔軟な対応を心がけていく。
3	支援ごとに保護者の方とお子さんの日々の様子を情報交換する機会、保護者支援を含めた相談・助言の機会を設けている。	保護者の方と療育時にFBの時間を設け、お子さんの最近の様子を具体的に共有する機会を設けている。また、必要に応じて相談・助言を行いながら、支援者と保護者が共通認識を持ち家や事業所で一貫した支援が行うよう意識している。	FBや保護者からの相談内容についてより具体的に分かりやすく伝えることができるよう、工夫を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族が参加できる研修会や情報共有の場の開催が十分とは言えない。	家族が参加できる研修会や情報共有の場の開催は回数が限られていた。また、家族やきょうだいで参加できるイベントの企画も実施回数や、認知・周知の手段が不十分であった。	家族で参加できる研修会や交流会を年間計画に位置付けるなど工夫し、計画的に実施していく。また、イベントの開催目的や内容を明確にし案内方法を工夫することで、参加しやすい体制を整えていく。
2	地域交流の機会が少ない。	地域とのつながりを意識した活動や交流の場の設定が十分に図れていない点が課題である。	地域との交流の機会を設け、可能な範囲で交流活動の実施を検討していく。また、連携しやすい関係づくりの構築として、相談支援事業所とより連携していけるよう工夫していく。
3	児童発達支援計画について保護者の方と共有し、課題と支援の関連付けを説明する機会が少ない。	各療育において、児童発達支援計画に基づいた支援の提供を行っている。日々の支援がどの目標に基づいて行われているかを関連付けて伝えることが十分でない面がある。	支援計画の意図や具体的な支援内容、目標に向けたプロセスについて保護者に分かりやすく具体的にお伝えできるよう、職員間で検討していく。日々の療育においても計画に沿った支援を行い、支援内容について説明できるようにしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 FLOW岡寺

公表日 2026年3月6日

利用児童数 95名

回収数 81名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	74	7			年齢が近ければスペースはちいさくても十分だが、活動量が多いとぶつかったりとするため時々危ないとおもうこともある。 待合室が狭く、出口のすぐそばで、そこは不便を感じる。	療育室内の活動スペースを工夫しながら、安全に活動できるよう工夫していきます。 待合室についても、空き部屋を開放するなど、スペースを工夫していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	74	3		4	子1人に対して先生2名体制がいつの間にか1名になっていたのが残念でした。よく動く子の保護に親が入る頻度が増えたので。	療育内容、療育形態に応じてスタッフの体制を取っております。 保護者の方と一緒に活動することで、よりお子さんと一緒に楽しみながらお子さんの理解につなげていただけたらと考えています。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	68	8		5	待合室が狭い。	複数のお子さんが待合室をご利用する時間帯は空き部屋を開放するなど、工夫していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	76	5				
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	76	3		2	その時々の子どもの状況に合わせて、都度寄り添った支援を行って頂きありがたく感じています。	ご意見ありがとうございます。よりお子さんに状況を把握しながら専門性ある支援を行えるよう工夫していきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	77	2		2		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	71	1		9		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	49	2		30		ガイドラインの支援内容に沿って総合的な支援の方針を行っております。支援計画書の記載方法や説明方法を共有できるよう改めて行ってまいります。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	47	4		30		児童発達支援計画に沿った支援を行っております。保護者の方と共通認識を持ち支援を進めていけるよう改めて行ってまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	69	9		3		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	16	8	23	34		イベントや研修会などの交流の機会を企画・設定できるよう検討していきます。
保 護 者 へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	77	3		1	費用面の説明が不十分。	説明の際にしっかりと保護者の方に伝えるよう支援者間で検討していきます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	54	2	1	24		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	42	12	3	24		保護者の方のニーズに合わせて、開催を検討し幅広く参加いただけるように工夫していきます。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	80			1		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	74	5	2		始めたばかりでまだ受けていない。 担当でない職員さんも気を使って声をかけてくださいます、	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	80		1		始めたばかりでまだ受けていない。	

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27	9	11	34		
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	67	4	2	8	担当の先生が不在で、違う先生に説明したが上手く伝わっておらず、結果的に何回も説明しなくてはいけなくなった。	職員間で情報共有を徹底し、支援させていただきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	77	3		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	70	2		9		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	79			2		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	65	3		13		各種委員会を設定しており、マニュアル策定を行っています。適宜見直しやマニュアルに沿った活動、訓練も実施しています。より、情報などが分かりやすくお伝えできるよう、掲示や情報発信の方法を工夫しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	51	1	2	27		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	71	4		6		定期的な遊具や療育室の安全点検を行い、事故防止対策としてのヒヤリハットの共有を通して、安全に支援を行える体制作りを行っております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	65	1	1	14	怪我をしたことがありましたが、帰宅後にも連絡があり、次の回から一時的に先生が2名になりました。	事故発生時の対応や連絡対応について面談時にお伝えし、支援者間でも発生時に対応・行動できるように共有しております。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	80	1			とても行くことを楽しみにしたり行くたびに笑っていて、特に男性職員さんとさらにむちゃくちゃ張り切って職員さんをもみくちゃにするくらい楽しそうにしています。	お子さんにとって安心して活動していただけよう、お子さんの支援プログラムの立案、環境の提案に努めてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	76	3		2	毎回とても楽しみにしています。毎週の予定を待ち遠しくしていますし、たまに空き予定日にも、行く？と聞くと行く！と即答してくれます。いつも温かいご支援ありがとうございます。離せない、理解できないので分かりませんが楽しんでます。	引き続き、お子さんや保護者の方が「たのしい」「いきたい！」と感じていただけるような活動設定をお子さん一人ひとりのニーズに合わせながら支援を行っていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	78	2	1		回数が多ければなおいが、人が多くなかなか希望する日にはいりにくい。追加でとりたくても空を待っている人も多くなかなかむずかしい。本当に満足しています。いつもありがとうございます。	利用回数・利用枠の設定の検討をニーズに沿って行っていきます。一人ひとりの目標に応じて、お子さんの成長の一助となるように努めていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		FLOW岡寺					公表日	2026年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		活動に応じて、部屋の使い方や定員数を設定している。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		必要に応じてサポートできる配置体制を行っている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		活動内容に応じて、空間の調節や遊具などの環境設定を行い、個々のニーズに沿った環境づくりを行っている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		活動終了ごとに清掃を行い、室内の環境を整えている。	ほごりが溜まりやすい場所の清掃、遊具を使用する際の周辺の安全確認を常に行う。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		活動内容に合わせ、利用者のニーズに沿える環境の選択が出来るようにしている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	2	支援内容を支援者間で共有し、目標設定や振り返りの機会がある。	事業所全体での目標設定や意見の共有が行いやすい体制を図っていく。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		結果をもとに、保護者の意見や思いを傾聴し、支援者間で対応策について検討する機会を設けている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	事業所内でのミーティングや上司との面談の機会を定期的に設けている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9	第三者評価は実施していない。	外部講師などの意見をもとに、よりよい支援・運営に向けて検討し改善につとめている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		外部への研修の補助制度があることや社内での研修を定期的開催し、支援の向上を図っている。			
適切な支援の提...	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	1	支援の5領域を包括的に捉え、保護者に公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		保護者の方、お子さんのニーズをアセスメントし、ニーズの背景や評価を踏まえて、個別支援計画書を作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	児発管だけでなく、担当の支援者が共通の理解を持ったうえで、作成し保護者の方と共有を行っている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		支援者間で計画書を共有できる体制を図りながら、各領域の専門職が計画書に沿った支援を行えるようにしている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	面談や療育の中で質問紙を用いて、客観的に評価する機会を設けている。また、集団療育や個別療育の時間で、専門的な視点をもって観察・評価を行っている。	質問紙の評価の方法や各個人の評価・観察について、より事業所内で議論する機会を設けていく。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		支援のガイドラインに沿って、お子さんのニーズに合わせた支援計画の立案・実施が行えるようにしている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	3	個別療育・集団療育それぞれの支援の支援を組み合わせながらプログラムの立案を工夫している。	より専門職の強みを活かしたプログラムの立案が行えるよう、事業所内で話し合いの時間を設ける。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		お子さんに合わせて、活動内容を変えたり、環境設定や支援方法に変化を持たせられるよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		お子さんの様子や保護者の方のニーズに合わせてながら、集団療育・個別療育を選択できる環境にしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	3	朝礼や終礼での情報共有を行い支援者間で一日のスケジュールについて共有を行っている。	支援者間での情報共有がよりスムーズに行えるよう、記録の残し方などを工夫していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	療育終了後に担当間で振り返り、次の支援につなげていけるよう工夫している。	支援者間で積極的に振り返りが行いやすい環境設定を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		各療育、必ず支援記録を残すようにしている。また、支援記録だけでなく、評価、検証を交えて記録として残せるように工夫している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		定期的な保護者とのモニタリングの機会を実施し、計画書の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		相談支援員と連携を図りながら、お子さんや保護者の方の情報共有を実施している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	市町村と必要に応じて連携を図り、見学や相談の機会を実施している。	積極的に地域の関係機関との協力体制を整えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	2	相談支援事業所との連携や移行支援を通して保護者の方の意向を聞き取り情報を共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	4	保護者の意向に応じて、情報提供を行っている。	移行支援の充実を図るために、学校との連携体制を整えていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	6	直接的な関わりは少ないが、野外活動やイベントなどを通して、地域の方と関わる機会を提供している。	開催しているイベントなどについて、地域の方への周知を工夫していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		療育終了後に保護者の方とFBを行い、お子さんの現状や課題について共有できるようにしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1	日々の支援の中で、個々の家族に応じた説明・提案・助言を行っている。また、HPなどで情報提供を行っている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		面談・契約の際に事業所をご利用いただく際の案内を冊子を通して行い、丁寧な説明をこころがけている。		

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		保護者の方やお子さんの意向を聞き取りながら、支援の5領域を含む計画書を作成し、総合的な支援が行えるよう工夫している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		計画書を説明の際は必ず提示し、具体的に説明しながら相互が無いか確認している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		日々のFBや家族支援加算などの時間を設定しながら、相談・支援できる時間を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	3	集団療育などの時間を通して、保護者同士が交流できる場を設けることができるよう工夫している。また、地域における父母の会の活動を支援している。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		相談や申入れに対しては、窓口を設置している。また、早急に対応が必要な場合は対応できる支援体制を整えている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		公式LINE、Instagram、HPなどを活用し、療育内容やお知らせを発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		事業所内で、個人情報にあたる範囲の共有を徹底し、管理とともに、必要な場合は保護者の同意を必ず得るようにしている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		お子さんと保護者の方と共通理解が持って支援を行っていきけるよう、お子さんに合わせた視覚情報の提示（イラスト・文字）、声掛けを行えるよう工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	1	地域の方が参加できるイベント・行事を開催している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		事業所内で各委員会を設置し、マニュアルを作成するとともに定期的な訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		災害に備えBCPを作成や備蓄品を準備して対策を行っている。	委員会を中心とし、どの支援者でも対応できるよう支援者間で共有していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		保護者の方と面談の際や療育開始時に状況を確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		保護者の方と面談時の確認事項として必ず聞き取るようにしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		定期的な遊具点検や事業所内の環境設定を見直し、安全に支援を行える体制作りを行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		家族の方との連絡先の確認や、災害時に周辺の避難場所の確認、避難の掲示を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		毎日ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた対策を検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		委員会を設定し、委員会を中心に事業所外部での研修に参加する機会や、事業所内での情報共有の機会を設けて対応している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		身体拘束について事業所内で共通認識を持ち、必要に応じて計画書に記載している。	